

基調報告

認定 NPO ファミリーハウスは 1991 年創立以来 24 年、NPO 法人格取得以来 16 年、認定 NPO 取得から約 5 年が経過いたしました。この間活動を支えてくださった会員の皆様をはじめ、多くの支援者のご理解、ご協力に心より御礼申し上げます。

ファミリーハウスは 2014 年度、12 施設 58 室を運営し、1,164 家族、延べ 11,494 人の方々にご利用いただきました。ハウスを支えるボランティア、スタッフの皆様のご努力に感謝申し上げます。

2014 年度は、ファミリーハウスのハウスづくりを強化する年となりました。

まず、変化する利用者のニーズに応じて、病院から徒歩圏の 2 つのハウスを開設しました。ひとつは、乾汽船株式会社より 2 室提供いただき、国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院から徒歩圏内のかちどき橋のおうち。もうひとつは、個人の篤志家から提供された 1 家族用 1LDK の余丁町のおうち。東京女子医科大学病院から数分のところに位置し、心臓病で長期に入院を余儀なくされ、自宅まで帰ることができない患者さんの外泊が可能になりました。

また、重症な患者さんを受け入れていく機会が多くなり、病院とも連携の必要な中で、より専門性を高めるために、ハウス運営者の研修プログラム作りを行いました。この、「ハウスゆいまーる」スタッフ研修は、独立行政法人福祉医療機構の助成を得て、東京と大阪で合計 4 回行いました。

さらに、2013 年度に引き続き、2014 年 11 月医療従事者を対象にファミリーハウス・フォーラム 2014 『病気の子どもと家族のトータルケアを考える ～生きているを見つめる～』を開催しました。JT 生命誌研究館館長の中村桂子先生からの基調講演につづき、ハウス運営者からトータルケアの実践報告、ハウス利用者からの経験談、看護師からのメッセージも紹介。ハウスがトータルケアとして果たしてきた役割と今後の可能性を検討しました。(公益財団法人 JKA 平成 26 年度オートレース補助事業)

また、今年度も非常に多くのボランティアの皆さんにハウス運営にご協力をいただきました。定期的にハウスを支えていただくボランティアは、登録が昨年同様 302 名で定期的な活動を支えました。その他、企業社会貢献で行われる 1 日ボランティアは、ハウスでの活動は 54 回延べ 562 人が参加。企業へ訪問し、当会の活動を紹介するとともに、その場で社員の皆様に、ハウス利用者へのクリスマスプレゼント作りなど行う「出前ボランティア」の活動は 8 回延べ 406 名が参加。合計で 62 回 968 名のご協力をいただきました。

その他にも、管轄が国税庁から東京都へ移管された「認定 NPO」の再取得が終了し、「理想の家」のプロジェクトも国立がん研究センター中央病院との連携が正式に確認されました。また、2014 年 4 月には、ぞうさんのおうちが 10 周年を迎え、同年 9 月にはおさかなのおうちの 20 周年を迎えることができました。多くの皆様のご支援とご協力をいただき、この活動を続けてこられたことを心から喜びと感じております。

この 1 年間活動を支えてくださいました皆様方に御礼申し上げますとともに、今後ともこの活動にご支援ご協力賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

理事長 江口 八千代

2014 年度事業報告

1. ハウス運営事業

(1) ハウス運営事業

2015年3月末の施設数は、12施設58部屋。利用実績は、1,164家族(11,494人)延べ8,579日。本法人活動開始以来の利用実績累計は、15,633家族、延べ140,848日。

〔1〕『かちどき橋のおうち』(中央区)開設

2014年4月、都営大江戸線勝どき駅から徒歩3分の14階建てマンション(1LDK・50㎡)2室をイヌイ倉庫株式会社(現乾汽船株式会社)より提供され、ハウスを開設した。国立がん研究センター中央病院、聖路加国際病院から徒歩圏内のため、重篤な患者さんが外泊しやすく、家族全員で宿泊できるなど、患者とその家族のQOLをあげることができた。

〔2〕『余丁町のおうち』(新宿区)開設

2015年2月、都営大江戸線若松河田駅から徒歩5分、東京女子医科大学付属病院、国立国際医療センターに徒歩数分で通える好立地にオープン。個人の篤志家より提供された約10畳のリビングと8畳のベッドルームの1LDKで、特に女子医科大学付属病院の重篤な心疾患の患者さんの外泊に利用されている。延べ80名のボランティアにより約2ヶ月間で開設準備をした。

(2) 安全衛生について

〔1〕クリーニング業者の協力を得て、各ハウスの寝具リネンのクリーニングを行った。

〔2〕昨年度に引き続き、助成財団の支援を得て、リース寝具を提供することが出来た。

〔3〕毎月1回、共同で使用する洗濯機槽及びエアコンフィルターを洗浄し、衛生的な環境を保つよう努めた。

〔4〕延べ40回ハウスの大掃除を行った。日常の清掃は利用者とオーナーやボランティアが行っているが、企業の社会貢献活動の一環として参加する社員もあり、今年度大掃除参加ボランティアの延べ人数は合計474名となった。

〔5〕普段の活動で手の届かない箇所(洗濯機槽など)について、専門業者によるハウスクリーニングを実施した。

(3) ハウス設備の充実

〔1〕個人、企業、団体からの温かいご支援により新規ハウス開設を実現し、また既存ハウスの居住性を高めることができた。

●新ハウス「かちどき橋のおうち」開設準備のため、UPS基金、エドワーズライフサイエンス基金の支援を受け、設備や備品を整えた。

●新ハウス「余丁町のおうち」開設準備のため、個人、企業、東京マラソンのチャリティランナーの寄付により設備を整えることができた。

〔2〕個人や企業からのご支援により、絵本・DVDソフト・おもちゃなど多くの寄贈をお受けした。

〔3〕ホームページのウィッシュリストを見て、多数の生活用品や食品が届いた。ボランティアの協力を得て各ハウスに配備し、闘病中のご家族の経済的負担軽減に努めた。

〔4〕ボランティアが中心となり、クリスマスや母の日など季節の贈り物を手作りして準備した。企業、個人のボランティアの協力によりこのプロジェクトを行った。その結果、ハウスを利用するご家族や入院中の子どもたちに多くのプレゼントを届けることができた。

(4) ボランティア関係報告

〔1〕事務局及びハウスにおいて延べ20回のボランティア説明会を開催した。1年間の新規ボランティア登録者は53名。ボランティア説明会では、ファミリーハウスへの理解を深めること、ボランティア希望者と運営者側のニーズがマッチングする事の二点に重点を置いている。2015年3月現在、登録ボランティアは302名。

〔2〕各ハウスでは、ボランティアチームを編成し、ボランティアミーティングやハウスキーピングを定期的に行い、利用者にとって安心安全を支えるハウスづくりに努めた。

〔3〕チャリティコンサート、ブース出展、ファミリーハウス・フォーラムなど多くのボランティアに支えられてイベントを開催することができた。

[4]アフラックペアレンツハウス亀戸にあるボランティアルームにて次の活動が行われた。

- 絵本のブッカーかけ作業
- むいぐるみ、おもちゃ除菌
- 使い捨て布、雑巾、ゴミパック・エコバッグ、ビーズのキーホルダーづくりなど手仕事
- ハウスの座布団カバー、ベッドカバー、ソファカバー、クッションカバーなどの手仕事
- クリスマスや母の日など季節の贈り物づくり
- 寄付物品のラッピング(母の日のプレゼント・クリスマスプレゼントなど)
- イベント準備(チャリティコンサートお土産・展示物・資料準備、バザー一品作りなど)
- 発送作業
- その他(バザー品の作成など)

[5]定期的にボランティアルームにて、手仕事ボランティア活動を行った。

[6]企業社員の1日ボランティアの協力を得て、ハウスを大掃除を実施。54回実施し、延べ562名の参加があった。また、エコバッグ作り、クリスマスプレゼント作り、園芸(野菜、花壇作り)、企業に出張しての使い捨て布作り、キーホルダー作りなど、ファミリーハウスを支える活動を行った。その際に、スタッフやボランティアと活動理解につながる質の良い交流をすることができた。

[7]企業やチャリティコンサート、イベント等で、スタッフボランティアでファミリーハウスのブースを設け、活動の展示や資料配布、ファミリーハウス活動のデモンストレーションを行った。

[8]各ハウスでは、定期的にボランティアミーティングを開催し、多いハウスでは月に1度開催した。ファミリーハウスの現状、課題を共有し、今後ハウスのために新しく行っていきたいことなどが話し合われた。

[9]各ハウスに設置されているパソコンのメンテナンスを月1回、ボランティア協力により行った。ホームページの情報もボランティアの協力により、月1回、定期的に更新を行った。PCボランティアメンバーは合計17名。

[10]経理処理のチェック、労務管理、会員管理、利用率の算出、お礼状の発送、ファミリーハウス通信の発行発送、アニュアルレポートの編集、各種デザイン関係の支援など、ボランティアの協力を得て行うことができた。

(5) 研修及びハウススタッフミーティングの開催

[1] 患者家族滞在施設スタッフ養成

独立行政法人福祉医療機構の平成26年度社会福祉振興助成事業の助成を受け、ハウススタッフの養成カリキュラムを開発。東京で3回、大阪で1回研修を行った。ハウススタッフの専門性を2013年にとりまとめた小冊子『病気の子どもと家族のための滞在施設を運営するために大切にしていること(ハウスゆいまーる)』の内容を新人スタッフと共有できるように、パイロット研修を開催し教材(ハンドブック)を開発した。

[2]毎月1回、ハウスマネージャ合同のミーティング及びリーダーミーティングを開催した。

[3]各ハウスとも定期的にボランティアメンバーが集まり、ミーティングを行った。

[4]事務局において、毎週金曜日にプロジェクトの進捗ミーティングを行った。

(6) ハウスへの定期的な物品運搬

企業又は個人の方からご寄付をいただいた品物(生活用品、食料品等)を主に3ヶ月に1回実施の布団交換にあわせてボランティアのご協力を得ながら各ハウスに届けた。

2. 広報

(1) ファミリーハウス通信の発行

2014年度も毎号ごとに編集会議を行い、年4回の発行を行った。また、昨年度に引き続きプロボノのボランティアの協力を得て、質を意識した制作を行った。誌面を通じ、会員に対して活動への親しみやすさを伝えるとともに、寄付・ボランティア活動への参加醸成を行った。誌面だけでなく、同封する送付状等も読者に読んでもらえるものを意識し、毎号ごとに改善してきた。

また、正会員、後援会員、協力企業、関係団体、医療看護福祉系大学、専門職団体、医療機関、保健所等へ配布し、4 回合計で 17,430 部発送した。(前年は 16,338 部)
通信の編集・発送作業はボランティアの協力によって行われており、うち約 1/3 は企業ボランティアの協力も得て発送した。

(2) ファミリーハウス・フォーラム

2014 年 11 月 1 日、東京国際フォーラムにて、ファミリーハウス・フォーラム 2014『病気の子どもと家族のトータルケアを考える～「生きている」を見つめる～』を開催し、医療・福祉専門職や学生を中心に 145 名が参加。JT 生命誌研究館館長の中村桂子先生からの基調講演につづき、ハウス運営者からトータルケアの実践報告、ハウス利用者からの経験談、看護師からのメッセージも紹介。ハウスがトータルケアとして果たしてきた役割と今後の可能性を検討した。(公益財団法人 JKA 平成 26 年度オートレース補助事業)

(3) 見学研修受け入れ

ハウス利用希望者をはじめ、支援・協力希望の企業、団体、個人等多数の見学受け入れを行った。ぞうさんのおうち 10 周年、おさかなのおうち 20 周年の際にオープンハウスを行った。アフラックペアレンツハウス浅草橋、亀戸では、毎週金曜日に 2 回(冬季を除く)アフラックのアソシエイツ向けにアフラックが企画した見学会をファミリーハウスが担当。2 ハウス合わせて 34 回実施し、延べ 570 名が参加した。

(4) ファミそ作り

料理研究家脇雅世さんご夫婦の「病気のお子さんご家族を、自分たちのできることで応援したい！」という思いからファミそ～ファミリーハウスのための味噌～作りが実現した。ホスピタリティデザインをてがけるプロボノの寺澤さんにご協力いただきオリジナルのラベルも完成。イベントや支援企業の販売会でも紹介していただき、ファミリーハウスを知っていただく大きなツールのひとつとなった。

(5) クリック募金

株式会社エイブルよりクリック募金よりご支援をいただいた。クリック数は、一日 4,400 件程度。一年間の合計は 1,608,713 円となった。

(6) マスコミ等からの取材

新聞、雑誌、企業などの取材申し入れがあった。取材、掲載等は 6 件。

(7) ホームページ

2015 年 3 月末現在アクセス数は 288,792 件、一年で 27,299 件アクセスされた。2014 年度も、ホームページ更新ボランティアの協力により、月 1 回の定期的な更新を実施することができた。また、オンライン寄付の仕組みも増え、「Canpan 決済」の新サービス、国際的な寄付サイト「ammado」、ソフトバンクモバイル株式会社が提供する「かざして募金」を新たに始めた。今後は、オンライン寄付も増加させるためにホームページのリニューアルが課題である。

(8) 学会等への参加、講演

[1]公益財団法人パブリックリソース財団「第2回寄付フォーラム」(2014 年 8 月 7 日、千代田区)
ファミリーハウスの紹介と取り組みを発表

[2]「第 14 回中部小児がんトータルケア研究会」(2014 年 9 月 27 日、金沢市)
ゆいまーるを用いた研修の発表を行った。

[3]「第 17 回日本 NPO 学会」(2015 年 3 月 15 日、武蔵大学)

第 17 回年次大会(2015 年 3 月 15 日、武蔵大学)において、「医療福祉 NPO におけるコンピテ

ンシー開発 ～認定 NPO ファミリーハウスの事例～というタイトルで、2010 年～2013 年に実施したハウススタッフの専門性を言語化するプロジェクトの事例を報告した。

[4]その他

企業、行政主催の講演会で 7 回ファミリーハウスの活動の講演を行った。その他、シンポジウム等へ参加した。

(9) イベント(詳細は「今月のファミリーハウス」や会報「ファミリーハウス通信」にて報告)

- [1]チャリティコンサートにてブース出展
- [2]ぶたねこチャリティコンサート
- [3]ジャズナイト@魚籃寺(おさかなの家コンサート)
- [4]「子供未来とうきょうメッセ」ブース出展
- [5]東京マラソン 2015 参加

3. 援助及び支援活動

(1) 相談事業

- [1]受付・電話相談の総数は、5,050 件。電話相談問合せは、382 件。
- [2]訪問による相談件数は、68 件。
- [3]利用者を受け入れる際に、必要に応じ病院との連携を行った。また関連団体との連携、協力を図った。ボランティアとともに病院見学を行った。また、理想の家については、国立がん研究センター中央病院と正式に協働していくことを合意した。

(2) 援助支援活動

- [1]利用料支払い困難者に対し、公益財団法人森村豊明会より利用者助成積み立て基金を得て、減免を行った。
- [2]「研修費」の一部(医療・福祉系学生への滞在施設啓発事業)について、公益財団法人 JKA「オートレース公益資金」による補助金を受けて実施した。
- [3]「研修費」の一部(患者家族滞在施設スタッフ養成プログラム事業)について、独立行政法人福祉医療機構の「平成 26 年度社会福祉振興助成事業」の補助金を受けて実施した。
- [4]「ハウス運営・相談事業費」および「広報活動費」の一部について、メトロニック財団による補助金を受けて運営した。

4. その他

(1) 利用者データベース構築

利用率計算を効率化するため、エクセルからアクセスでのシステム変更を、IT ボランティアの協力を得て進めた。日常の「日報」や「宿泊計算書」の作成業務と連動して利用率計算ができるようなシステムを開発し、2014 年度は、アフラックペアレントハウスの仮運用に取り組んだ。

(2) 認定 NPO 取得について

2010 年に国税庁からの認定を受けて「認定 NPO」となっているが、その有効期間が 2015 年 6 月末で切れるため、新規に認定申請をして 2014 年 12 月 19 日付けで東京都からの認定が認められた。(新制度では国税庁から都道府県へ認定申請先が変更となった)。認定の有効期間は、2014 年 12 月 19 日～2019 年 12 月 18 日となる。

(3) 第 15 回 JHHH ネットワーク会議の開催

2014 年 11 月 2 日、国立がん研究センター中央病院にて、当会主催により、全国のハウス運営者 65 名が集まり開催。厚生労働省母子保健課の担当者から、新しく始まった「小児慢性特定疾病児等 自立支援事業」について説明を受け、ボランティアコーディネートについて当会の取り組みを紹介し、分科会ではテーマ別にハウスの質的向上について話し合った。その結果を報告書にまとめた。

(4) 商標登録

ハウス運営者のためのコンピテンシーリスト「ハウスゆいまーる」の商標登録を行った。